

授業での活用（実践報告例）

【情報コミュニケーション科】

1) 使用機器・使用ソフト名（価格）

- ・ P C ・ 文字情報ディスプレイ
- ・ Adobe Acrobat X Pro ・ Adobe Photoshop CS5
- ・ Adobe Illustrator CS5 ・ Microsoft PowerPoint

2) 使用状況

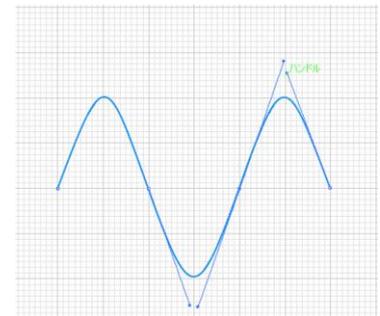
学年	学科	科目	週あたりの使用率 (使用時間数/授業時数)
専 I	情報コミュニケーション科	情報デザイン実習 I	4 / 4
専 II	情報コミュニケーション科	情報デザイン実習 II	4 / 4

3) 使用例および生徒の反応

- ・ P D F 化した教材を文字情報ディスプレイに表示し、重要な事項の板書を文字情報ディスプレイに行う。また画像や補正方法を提示する。
- ・ 聴覚障がいのある生徒の場合、教科書・プリントを見ながら同時に説明を聞くことが難しいが、ディスプレイに表示することでプリントを読みながら説明を聞くことができる。また、プリントへの記入の指示も的確にでき、時間を短縮できる。
- ・ また、難解なデザインの作成や画像修正が簡単に解説できる。

【ディスプレイ表示の例】

- ・ ソフト **Illustrator** において、ベジェ曲線によるイラスト作成では印刷物では表示しない部分（アンカーポイントなど）を文字情報ディスプレイに表示させて解説している例です。（右図）
- ・ ソフト **Photoshop** の例としては合成写真の被合成物の加工法を解説、導き方を考えさせたりする。図は背景写真に合成物の加工途中と仕上がり見本です。教科書の解説だけでは難解であるがディスプレイに提示しながら授業を展開することで理解の助けにする。



4) 今後の展望（来年度に向けての工夫等）

家庭では、ほとんどの生徒は **Photoshop**、**Illustrator** などのデザインソフトを持っていないため、学校における練習・模範解答の確認や考え方が重要となってくる。このアプリを利用して基本図形の作成法や色彩の調整法など様々な角度から観察したり、自分で配置・配色を考えたりすることで生徒の理解が深まる。家庭での復習が難しいので、その日に学習した内容を家庭でもイメージできるように補助プリントの作成が欠かせない。